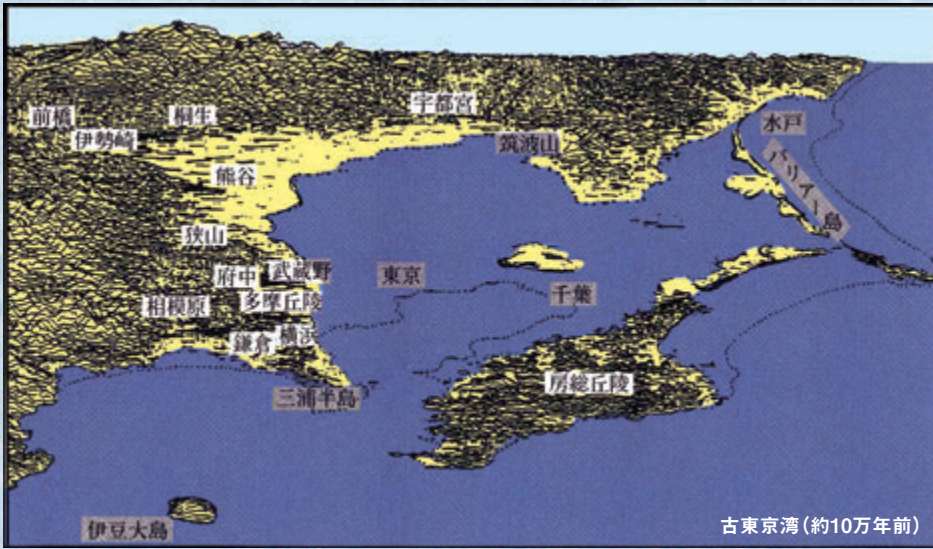


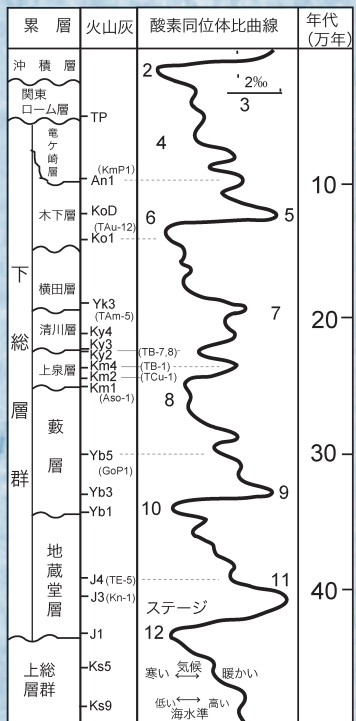
# 国指定天然記念物

き おろし かい そう

# 木下貝層



(引用文献)「古東京湾のバリアー島」1992年 地質ニュース458号 16-27 増田富士雄



下総台地をつくる地層は下総層群と呼ばれ、約45万年前から8万年前の更新世の地層です。下総層群は全体の厚さが約300mで、薄い礫層や泥層と貝化石を豊富に含む比較的厚い砂層(海成層)の繰り返しからなり、7層に分けられます。このような層位の繰り返しは、約10万年周期の地球規模での気候変動によるもので、寒冷になって極の氷河が増えると海面は下がり、温暖になって氷河が減ると海面が上がる現象から形成されました。

下総層群は、下総台地全域に分布しますが、印西市周辺に露出しているのは、下位から清川層、木下層、関東ローム層です。



木下万葉公園南側露頭【指定地】

木下貝層は、約12万年前の地層で千葉県中北部に広がる下総台地と呼ばれる標高20m～30mの台地に分布しており、貝化石類を多く含んだ地層が木下で最初に調査されたので、「木下貝層」と呼ばれています。

その頃の関東平野は「古東京湾」と呼ばれる大きな海が広がっていました。印西市周辺も古東京湾の一部で、その海の波や潮の流れによって貝殻が集められ地層となったもので、バカガイ、ヒメアサリ、アカニシ、ハスノハカシパンなどが見られます。古東京湾はその後、地球の気候変動による海面の低下や、陸地の隆起により、現在の地形になりました。

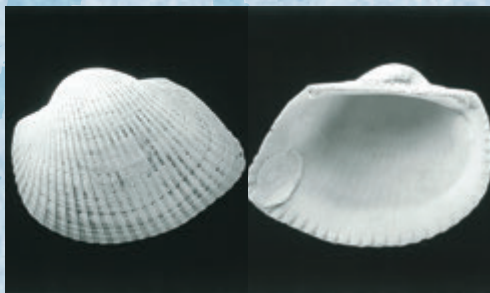
木下万葉公園内の木下貝層は、平成14年3月19日に国の天然記念物に指定されました。指定地はいつでも見学することができますが、採集は法律によって禁止されています。(所在地 印西市木下字平台799-1外)

[参考文献]「下総層群の年代と鹿島隆起帯の運動」2001年 第四紀研究 中里裕臣・佐藤宏幸

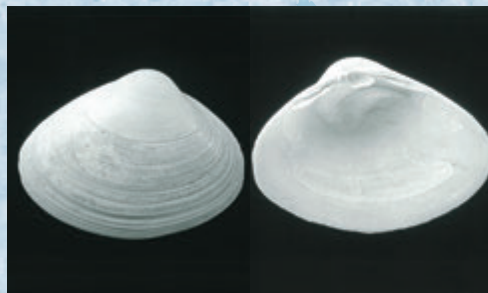


# 木下貝層で採集される主な化石を観察してみよう。

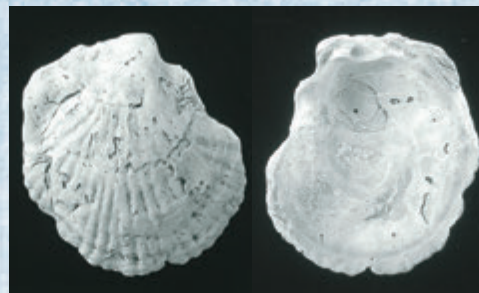
※( )内は殻長×殻高を示す。  
 ※英字部は学名(斜体)、命名者、(科の学名)を示す。



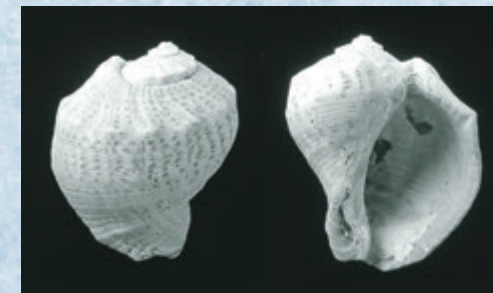
**1** アカガイ[フネガイ科]  
 (90mm×75mm)  
*Anadara broughtonii* (Schrenck) [Arcidae]



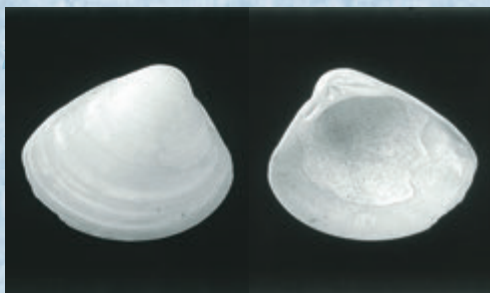
**2** バカガイ[バカガイ科]  
 (80mm×60mm)  
*Mactra chinensis* Philippi [Mactridae]



**7** イタボガキ[イタボガキ科]  
 (60mm×110mm)  
*Ostrea denselamellosa* Lischke [Ostreidae]



**8** アカニシ[アッキガイ科]  
 (130mm×100mm)  
*Rapana venosa* (Valenciennes) [Muricidae]



**3** ハマグリ[マルスダレガイ科]  
 (75mm×70mm)  
*Meretrix lusoria* (Röding) [Veneridae]



**4** キタノフキアゲアサリ[マルスダレガイ科]  
 (20mm×13mm)  
*Gomphina neastartoides* (Yokoyama) [Veneridae]



**9** ヤツシロガイ[ヤツシロガイ科]  
 (120mm×100mm)  
*Tonna luteostoma* (Küster) [Tonnidae]



**10** ハスノハカシパン[カシパン科]  
 (殻径60mm)  
*Scaphechinus mirabilis* Agassiz [Scutellidae]



**5** キオロシアサリ[マルスダレガイ科]  
 (43mm×27mm)  
*Ruditapes kioroshiensis* (Hirayama & Ando) [Veneridae]



**6** トウキョウホタテ[イタヤガイ科]  
 (160mm×160mm)  
*Patinopecten tokyoensis* (Tokunaga) [Pectinidae]

